

平成 23 年 2 月 3 日

各位

会社名 株式会社 新生銀行
 代表者名 代表取締役社長 当麻 茂樹
 (コード番号 : 8303 東証第一部)

平成 23 年 3 月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

当行は、平成 22 年 5 月 14 日の決算発表時に公表いたしました平成 23 年 3 月期通期の連結・単体業績予想を下記のとおり修正いたします。

通期の連結当期純利益予想については、堅調な業績や、資本施策に伴う非経常的な利益計上などにより、当初予想の 125 億円を大幅に上回る 430 億円に上方修正いたします。当行は 3 期ぶりの黒字化を達成する見込みであります。

なお、第 4 四半期(3 ヶ月)には、平成 23 年度以降の収益の安定化を確実なものとするため、以下のとおり、不透明な業務環境下でのダウンサイドリスクへの積極的な対処の実施を織り込んでおります。これらは、中長期的に企業価値の向上に繋がる施策であると考えております。

- ① 不透明な市場動向を踏まえたスペシャルティファイナンスなどにおける踏み込んだ引当金の積み増しや、不動産関連などの不良債権処理の推進に伴う与信関連費用の計上
- ② 過払利息返還請求動向は引き続き不透明な状況が続くと思われるとの慎重な見通しに基づく、コンシューマーファイナンス子会社、主にシンキ、アプラスフィナンシャルにおける利息返還損失引当金の追加繰入
- ③ グループ全体でのリストラによる一時費用の計上

さらに、現状の法人税率引き下げに係る議論を踏まえた税効果関連費用も織り込み、結果的に第 4 四半期(3 ヶ月)の四半期純利益はマイナスになると想定しておりますが、既述のとおり、通期の連結当期純利益は 430 億円と、当初予想比、大幅な上方修正となっております。

ノンコア業務資産の処分も中期経営計画を上回るペースで推移しております中、更に、第 4 四半期において上記手当てを積極的に実施することにより、平成 23 年度以降、不良債権比率の改善に取り組みつつ、収益力の安定化を実現していく上で、ダウンサイドリスクは期間損益で十分対処可能な水準まで減少するものと見込んでおります。

なお、通期の単体当期純利益につきましては、当初予想からの修正はいたしておりませんが、当行が保有する子会社アプラスフィナンシャル普通株式を、子会社新生フィナンシャルに譲渡したことに伴う売却損 317 億円を計上したうえでなお、経営健全化計画での計画値でもある 100 億円の達成へ向け、堅調に推移するものと見込んでおります。

当期の業績予想数値の修正(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

(単位:億円)

(単位:億円)

| 【連結】 | 経常収益 | 経常利益 (△は経常損失) | 当期純利益 (△は当期純損失) | 1株当たり当期 純利益 (△は1株当たり 当期純損失) | キャッシュベース 当期純利益 (△は当期純損失)* |
|------------------------------|-------|------------------|--------------------|--------------------------------------|---------------------------------|
| 前回発表見通し (平成22年5月14日公表)(A) | 5,000 | 250 | 125 | 6円36銭 | 236 |
| 今回見通し (B) | 4,600 | 250 | 430 | 21円89銭 | 540 |
| 増減額 (B-A) | △400 | - | 305 | 15円53銭 | 304 |
| 増減率 (%) | △8.0 | - | 244.0 | 244.0 | 128.8 |
| (ご参考)前期実績 (平成22年3月期) | 5,663 | △726 | △1,401 | △71円36銭 | △537 |

*純利益(または純損失)からのれんに係る償却・減損額及び企業結合に伴う無形固定資産償却・減損とそれに伴う繰延税金負債取崩を除いたもの

(単位:億円)

| 【単体】 | 実質業務純益 | 当期純利益 (△は当期純損失) |
|----------------------------|--------|--------------------|
| 前回発表見通し (平成22年5月14日公表) (A) | 320 | 100 |
| 今回見通し (B) | 570 | 100 |
| 増減額 (B-A) | 250 | - |
| 増減率 (%) | 78.1 | - |
| (ご参考)前期実績(平成22年3月期) | 209 | △476 |

以上